



名古屋大学高等研究院 研究者育成特別プログラム

— 自立的な若手研究者の育成のために —





目次

1. 高等研究院の概要
2. プログラム概要
3. 国際公募
4. 公正な選考プロセス
5. 自立して研究できる環境
6. 公正な評価
7. 高等研究院と部局との密接な協力関係
8. 自立した研究者としての教育
9. 達成目標
10. テニュアトラック教員リスト



1 高等研究院の概要



初代院長: 野依良治

- 名大 学術憲章に基づき、2002年設立
- 高等研究を行う教員に対して
 - 研究専念環境を提供
 - 管理運営、教育の軽減、免除
- 先端的研究と若手・萌芽的研究を支援
- セミナー、フォーラム、スーパーレクチャーの主催



高等総合研究館

組織・体制

院長

副院長(2名) 専任教員(2名)

運営推進委員(7名)

高等研究院教員(31名、併任)

高等研究院特任教員(本プログラムで採用、15名)

院友(23名、併任)

- 若手の萌芽的・独創的研究支援に重点的に取り組んできました。
- 本プログラムの導入により、若手の支援体制をさらに発展させます。



2 プログラム概要

名古屋大学高等研究院テニユア・トラック制度： テニユア・トラック候補者を国際公募・選考、自立した研究を支援、倫理教育をも実施、テニユアの賦与について評価

- (1) 国際公募
- (2) 公正な選考プロセス
- (3) 自立した研究の支援
- (4) 公正な評価
- (5) 高等研究院と部局との密接な協力関係





3 国際公募

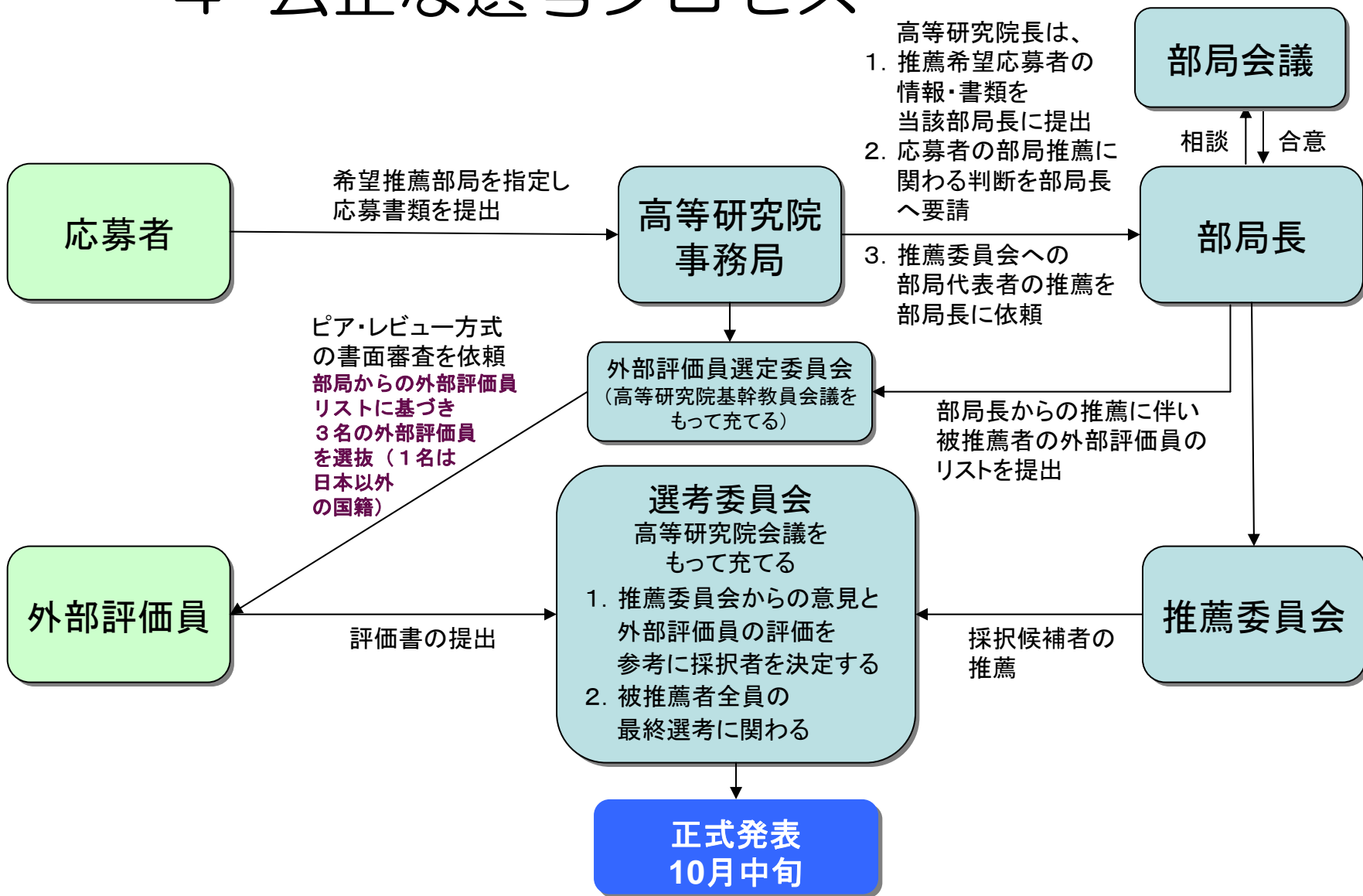
- 応募要項: 自然科学全分野、博士号取得後10年以内
- 『Nature』、『Science』誌等に公募広告を掲載
- 専用ウェブサイトより公募を受け付ける



応募専用ウェブサイトのアクセス総数は18,500件以上、
40以上の国・地域から総数386件の応募がありました。



4 公正な選考プロセス



5 自立して研究できる環境

- 研究費などを支給
- 高等研究院が管理・運営する「高等総合研究館」等に研究室および実験室を貸与し、独立した研究活動を支援
- コモン・ルームの設置



高等総合研究館



実験室



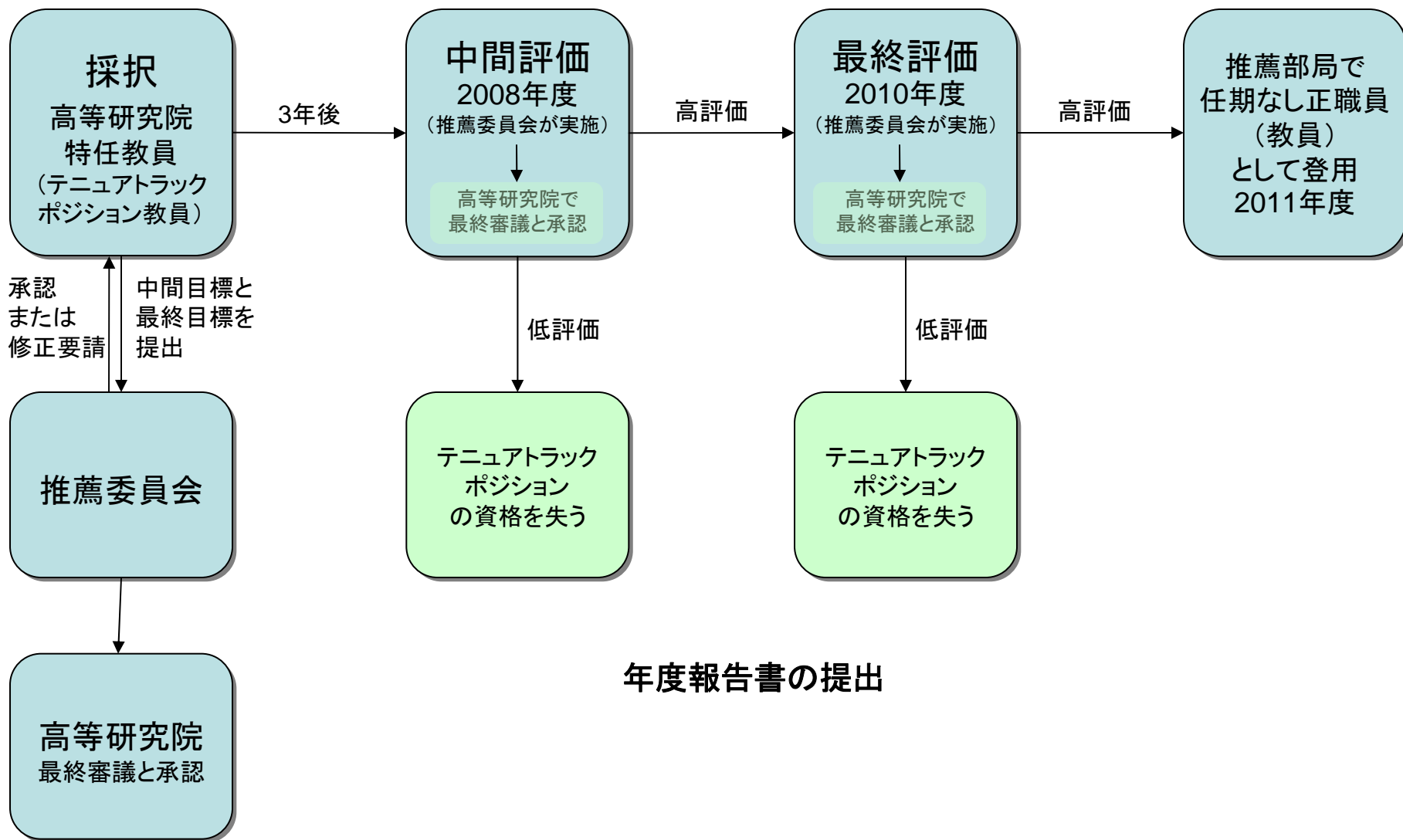
カンファレンス・ホール



ロビー



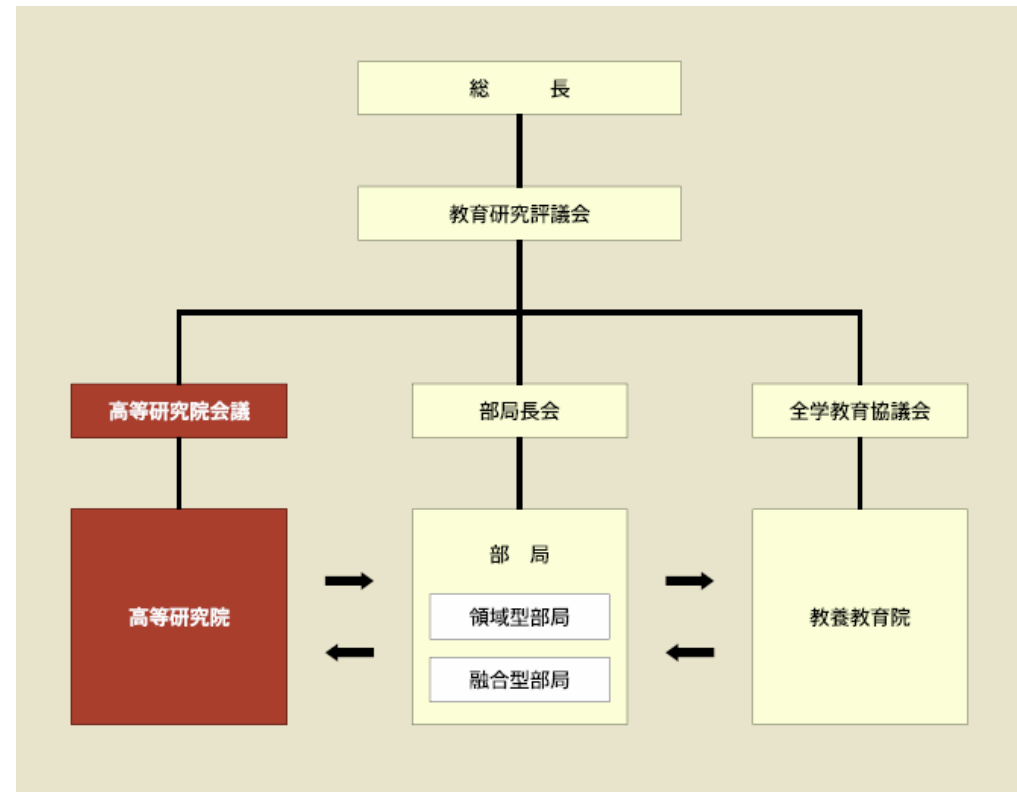
6 公正な評価





7 高等研究院と部局との密接な協力関係

- 各部局は、優れた応募者を高等研究院に推薦
- 各部局は、推薦委員会に委員を派遣し、候補者の研究方向・内容、テニユア審査基準等について高等研究院と協議
- 高等研究院と部局の連携により若手教員の研究・教育能力を育成





8 自立した研究者としての教育

- 名古屋大学を代表する最も優れた研究者である高等研究院教員によるレクチャー、フォーラム、セミナーなどの参加
- セミナーに、研究倫理問題を専門とする研究者の報告を加える
- 倫理教育に関連するテーマのレポートの提出
- コモン・ルームを設置、研究者間の自由闊達な議論や交流を促す



開催風景



レクチャー



フォーラム

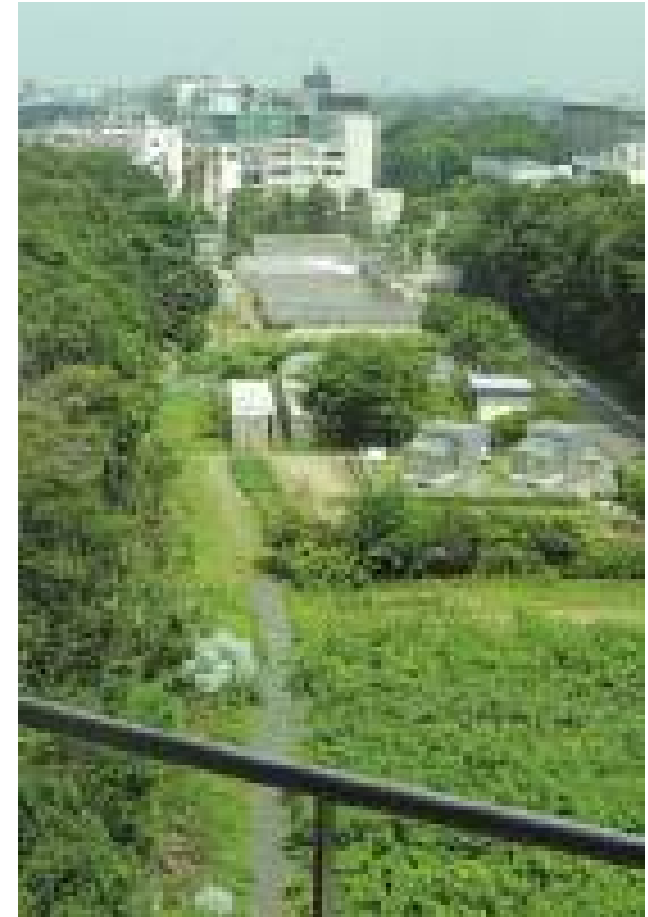


セミナー



9 達成目標

- 本プログラムで育成した若手研究者は、推薦部局の教員となり、力を発揮し成果をあげることに貢献すること
- テニユア・トラック制度(テニユア・トラック候補者を国際公募・選考、倫理教育を実施、テニユアの賦与について評価)のモデルを構築し、名古屋大学において浸透させること
- 高等研究員 若手育成プログラムの位置づけ 若手のテニユア教員の支援





10 テニュアトラック教員リスト

採択者氏名	推薦部局	研究テーマ
伊藤 素行	理学研究科	Notchシグナルの翻訳後修飾による調節機構とその発生における機能解析
榎本 篤	医学系研究科	AktおよびWntシグナル伝達経路におけるGirdinとそのファミリータンパク質の機能解析
持田 陸宏	環境学研究科	有機エアロゾルの物理化学特性および不均一反応過程とその気候への影響
前田 勝浩	工学研究科	精密構造制御を基盤とした機能性分子の開発と応用
坂本 知昭	生命農学研究科	農業的重要形質の発現制御機構の解明
森 英男	工学研究科	分子センサーによるマイクロ・ナノ流れの解析
海老原 祐輔	太陽地球環境研究所	次世代内部磁気圏系シミュレーションの開発と磁気嵐研究の新展開
小林 晃人	理学研究科	分子性導体における質量ゼロのディラック粒子による新物性の研究
勝野 雅央	医学系研究科	神経変性疾患の病態解明、治療法開発および分子イメージングの開発
Stephan IRLE	理学研究科	ナノカーボン工学とナノバイオ特性による量子化学の研究
竹内 努	理学研究科	紫外線・赤外線を中心とする多波長データによる銀河形成進化史の観測的・理論的研究
柳澤 聖	医学系研究科	プロテオミクス解析技術を応用したヒト癌並びに呼吸器疾患関連分子の探索とその臨床応用
五島 剛太	理学研究科	生命科学:細胞内ダイナミクスのメカニズムの探求
清水 康弘	理学研究科	核磁気共鳴を用いた強相関電子系における金属絶縁体転移の機構の解明
渡辺 崇	医学系研究科	細胞極性形成のin vitro/in vivoにおける統合的解析



今後の課題

1. 十分な研究費の支援
2. 協力研究員（ポスドク）の必要性
3. 対応部局での大学院教員としての位置づけ
4. 研究の独立性と部局との共同研究
5. 競争的資金への自由な応募
6. 公正な評価

テニュアトラック制度が根付くため

- 小講座制の部分的解体
2. プロジェクトスペースの確保
 3. 全国的な教員の流動性
 4. 専攻単位での テニュアトラック制度の実施